

話すこと・聞くこと

第6学年

話し手の意図をとらえながら、自分の考えを明確にして助言すること

つまずきの実態

～こんな児童の姿が見られませんか？～

話し手の意図をとらえながら聞き、話の展開に沿って、助言をすることができない。

スマホは持たないほうが良いと思います。ゲームやメールで時間がとられるからです。

他の理由についても付け足したほうがいいよ。

スマホを持って良いと思います。わからないことも簡単に調べられて便利だからです。

スマホで調べても身に付かないのではないですか。

確かに、これはいい質問だね。

聞く観点があきらかにしていないため、的確な助言ができていない

話し手の意図をとらえ、自分の考えを明確にして、助言ができていない

実践の概要

単元名

立場を明確にして主張し合い、考えを広げる討論をしよう

『学級討論会をしよう』光村図書

目標 評価をしながら討論を聞き、助言をすることができる。

内容 ・聞くための観点と適切な助言とはどのようなものなのかを話し合っ

- ・1回目の討論会を行う。
- ・観点に沿って評価をし、助言をすることができるように考えをまとめる。
- ・助言を受けて2回目の討論会をする。

学習内容の系統と各学年に見られるつまずき

| | 学習内容 (単元名) | つまずきの実態 |
|------|---|--|
| 第6学年 | 立場を明確にして主張し合い、考えを広げる討論をしよう | 話し手の意図をとらえながら聞き、話の展開に沿って、助言をすることができない。 |
| 第5学年 | 田鶴野小を良くするために提案書を書こう | 話し合う場面で、異なる意見を一つにまとめられない。 |
| 第4学年 | 大事なことを落とさない聞き取りメモ名人になろう | 話し手の伝えたい大事なことを聞き落とさず、工夫してメモすることができない。 |
| 第3学年 | 幼稚園さんに学校生活の様子をつたえよう | 互いの考えの共通点・相違点を的確に見つけられないために、意見がまとまらない。 |
| 第2学年 | つたえたいことが聞く人によくわかる「あったらいいな、こんなもの発表会」をしよう | 話し手が話した内容について、質問・アドバイス・感想が言えない。 |
| 第1学年 | きいて しらせよう | 大事なことを意識して聞き、そこから質問を見つけることができない。 |

単元末の目指す姿

- ・聞く観点をもつことで、評価しながら聞くことができるようになる。
- ・話し手の意図をとらえ、自分の考えを明確にして、適切な助言ができるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫①

評価をしながら討論を聞くために、観点についてグループで話し合う活動を行う。

活動のねらい▶ ・評価をしながら討論を聞くことができる。

ここがポイント

「聞くポイント」を明確にするために、次のような活動を行う。

- ① 討論会のモデルCDの内容を活字に表し、それを追いつながら、「主張と根拠にずれがない」「具体例を挙げている」など、上手な主張や質問のしかたを見つけて付箋に書く。
- ② 書いた付箋をグループで出し合って整理をする。
- ③ どんなことに気を付けて聞くとよいかを話し合い、「聞くポイント」としてまとめる。

授業の様子

質問に対する答えになっているか。

主張に矛盾点はないか。

主張と根拠にずれはないか。

根拠に説得力があるか。

具体例を挙げているか。

情報収集ができていますか。

(期待される児童の姿)

討論会でのそれぞれの立場(肯定側、否定側、聞く側)の主張や質問について、観点を明確にすることにより、評価をしながら聞くことができるようになる。

つまづき解消に向けた指導の工夫②

★主体的な学びにつながる実践

討論を聞き、どのように助言をすればよいかを考える活動を取り入れる。

活動のねらい▶ ・相手の立場に合わせながら助言をすることができる。

ここがポイント

どのように助言をすればよいかをとらえるために、次のような活動を行う。

- ① グループでミニ討論を行い、お互いに助言を試みる。
- ② 助言をするときには、どのようなことに気を付けてよいかを話し合う。
- ③ 「助言をするときのポイント」として掲示する。

授業の様子

例えばこんなふうになれば…というような改善策まで助言をしてもらえると、課題を解決するときに役に立つよね。

悪い点だけでなく、良い点も認めて助言をしてくれたので、受け入れやすい気持ちになったよ。

助言が、主張の仕方に偏っていたので、内容や構成についても助言ができるようにするといいな。

(期待される児童の姿)

自分達で「聞くポイント」や「助言をするときのポイント」を考えることで、相手の立場に合わせながら、見通しをもって討論を行ったり助言を行ったりすることができ、主体的な学びにつながる。